



以前、ある卒業生の方から「本校の校長先生のことについて、簡単に紹介してもらえないですか」と依頼がありましたので、本校に残っている記録をもとに紹介(校長在任期間 教科)してみました。思います。ある程度は筆者の憶測もありますのでご容赦下さい。

まず、初代「中村 英吉(明治十七年十月から十九年四月 商業)」ですが、本校の創立委員で最も活躍された関谷積造(福澤諭吉の交詢社の一員、その関係で福澤諭吉から推薦)の影響で大分県出身の慶応義塾出身で(福澤諭吉と縁続き)、当時は東京で出版関係の仕事をしていましたが縁あって本校に就任されました。在任中は、寄宿舎の設置や夜学科の設置に努力されました。参考までに、当時は半年一期で五期で卒業する制度でした。大分県中津市出身で雄弁だったことから本校初の部活動の講演部(明治二十年)創部に関係があるようです。明治二十五年三月に逝去。

二代目「菅川 清(明治十九年五月から二十一年十月 商業)」は、外務省の官吏出身でした。第一種商業学校に改め、外国語教育の重要性を訴え外国人講師の招聘活動に情熱を注がれました。また、生徒の服装を洋風化や学校医の就任、学校規則の制定などに尽力され、初の卒業証書授与式(五名)も挙行されました。退任後は、名古屋・神戸商業学校の校長を歴任され、その後実業界入りして横浜で絹織物の貿易商を営まれ、昭和四年二月十日に逝去。

三代目「伊東 雄次郎(明治二十一年から二十五年十二月 商業)」は、東京出身で本校初の東京商業出身の教員で、明治十九年に本校着任後、数職から校長に就任されました。この時期に予科の設置、初の修学旅行(広島方面)や新しい入江町校舎の新築を行い移転されました。明治三十一年十一月十七日に逝去。

四代目「内田 一心(明治二十五年十二月から二十六年九月、明治二十六年十月から二十七年二月) 赤間関市の第三代の市長で本校校長も兼務されました。萩出身で軍人出身の市長で当時は全国的にも珍しい存在だったそうです。本校が大変な時代に十ヶ月間と草野校長退任後の五ヶ月間巨額で市長の要職と本校校長を兼務される珍しい事態でした。晩年は萩の町長として大活躍されたようです。

五代目「草野 安吉(明治二十六年九月から十月 商業)」福岡県行橋出身 東京高商卒 この頃は本校が大変な時代でしたが、節目の創立十周年を迎えました。僅か二ヶ月の短い期間で、退任後は郷土で助役として活躍されました。六代目「堀 虎造(明治二十七年一月から同年六月)」本校教諭から校長に就任されましたが、学校の経営が苦難で、校長更迭、排斥の同盟休校運動が着任早々あり責任をとって退任されました。余りにも急で、歴代の校長の写真で彼だけが残されていません。

七代目「三戸 得一(明治二十七年八月から三十四年八月) 商業」学校経営が危機的な状況に陥ったので、時の文部省にお願いして推薦されて着任された本校教世主の一人。東京商業卒で岩田出身。本校発展のために鋭意経営に当たり、本校の基礎固めに努力された方。生徒の独立心をあおるため野球部やボート部を作られました。また、学術優等賞制度を開始され生徒の意識を高められました。名池山校舎改築に取り掛かる中で、京都商業学校校長に転任され、高松商業に野球部を創設されたり、商業学校の代表として国の高等教育会議員もされました。昭和五年郷土にて68歳で逝去。

八代目「斎藤 軍八郎(明治三十四年九月から大正十年四月) 商業」校長として歴代最長(十九年七月)の在職年数を誇られた方。新瀉県三島郡出身 東京高商卒 神戸・滋賀・大阪・京都の各商業学校から本校へ。在任中は、市立下関商業補習学校(現在の下関中央工業高校の前身)校長も兼任されました。名池山校舎の落成、校旗制定、校歌、万古館、講堂落成、特待生制度(授業料免除)や卒業生の善行表彰制度の導入などを手がけられた。創立二十・三十周年記念、クラス名の呼称を「仁・義・礼・智」へと変更、台湾への修学旅行などを手がけられ、その結果として部活動が目覚ましい活躍を発揮し始め、土魂商才、自由進取の校風を築かれた結果、入学生

願者が激増しました。また、卒業生の中で実業家として大活躍をされた方が出始め、同窓生は斎藤校長の苦勞に報いるためお金を出しあつて勇退される時に家を建てて贈ったとのこと。昭和二十年七月三十一日に八十六歳で逝去。その年の十月には、同窓会葬を本校講堂にて多くの関係者が参列され別れを惜しまれました。

第九代「山崎 繁樹(大正十年四月から十四年四月) 商業・英語」京都出身 大阪商業・滋賀商業・慶応義塾講師などを経て本校へ。在任中の大正十一年三月に名池山校舎全焼となり、復旧に努力して千量原校舎へ移転・新築に至る途中で台北商業学校長へと転勤されました。創立四十周年行事や、高卒四年生が尋卒五年生となり、さらには外地を見て回る満鮮修学旅行への取り組みも始められました。

明治・大正の時代は、本校創生期で順調にスタートしたように見えました。が、数々の問題から学校経営が厳しく、校長を始め教員の排斥運動など苦難に満ちた茨の道歩んだ時期でもあったのです。校舎も西之端・入江・名池山と三度に亘って移転するなど大変な時期でもありました。

以下、次号へ